地域再生計画

１　地域再生計画の名称

温泉資源とデジタル技術を活用した周遊拠点整備

２　地域再生計画の作成主体の名称

三重県いなべ市

３　地域再生計画の区域

三重県いなべ市の全域

４　地域再生計画の目標

４－１　地方創生の実現における構造的な課題

いなべ市は、岐阜県と滋賀県の県境を含む鈴鹿山脈・養老山地の山間地域とその麓の平野部に、多くの製造業の生産拠点が立地し、製造業の従業者比率が59.9％となっている。いなべ市の産業構造を強靭化するためには観光を含めたサービス産業を発展させることが課題であり、いなべ市では、温泉施設「阿下喜温泉あじさいの里」を活用した集客や、全国都市住民もターゲットにした集客施設「にぎわいの森」の整備、いなべ市の44％を占める山林・原野を活用した「アウトドア拠点」の整備などを進めてきた。

いなべ市の主な観光拠点は、市全体の令和２年度観光入込客 660,359 人の13.4％(にぎわいの森除く 29.0％)を占める「阿下喜温泉」、同入込客の 53.7％を占める 354,624 人を集客する「にぎわいの森」、同入込客の 31.3%（にぎわいの森除く 67.6%)を占める「アウトドア拠点」の３つである。これらの３拠点を結んで来訪者を滞留・周遊させていくことが課題となっている。

（観光入込の状況）

阿下喜温泉あじさいの里：平成 31 年度 126,783 人（構成比 30.9%）

令和２年度　88,636 人(構成比 13.4%､にぎわいの森除く 29.0%)

にぎわいの森：令和２年度 354,624 人（構成比 53.7%）※令和２年度新設

アウトドア拠点：平成 31 年度 190,375 人（構成比 46.3%）
令和２年度 206,761 人(構成比31.3%､にぎわいの森除く 67.6%)

市内にはアウトドア拠点を除いては宿泊施設が非常に少なく（市内の宿泊施設の収容人数 153 人、室数 78 室）、アウトドアに親しみが薄い層やワーケーションを求める人々が市内に滞在することが難しい状況にある。

＜阿下喜温泉あじさいの里＞

阿下喜温泉あじさいの里は、平成 18 年３月 21 日にオープンして以来、入館者数は平成 27 年度の 141,973 千人をピークに減少し、コロナ禍前の平成 30 年度は 122,718 人（平成 27 年度対比 86.4%）、コロナ禍の渦中にあった令和２年度には 88,636 人（平成 27 年度対比 62.4%）まで減少している。阿下喜温泉は、当初の設置目的は市民の健康福祉の増進であったが、近年は重要な観光拠点として位置づけ、いなべ市の総合基本計画第２期基本計画の成果指標として同施設の入込客数を設定しているものの、いなべ市を体現するコンセプトやサウナ、ワーケーション、スマートヘルスケアなど都市住民を魅了し「利用してみたい」「滞在してみたい」という動機を喚起する施設・機能を有していないことが課題であった。

具体的には、浴場としての機能は男女別の浴室（各１室）と定員４名程度の小サウナ室、畳敷きの休憩室、多目的ホールなどであり、入浴前後の多様な楽しみ方がなく、魅力度に欠けるという課題がある。

また、レストランで地域の食材を生かした美味しい食事が楽しめることや、地域産品の物販を買えることは施設の魅力度を大いに高め、料理に使用された素材や地域の加工産品を併せて販売するなど、これらは地域食材をＰＲするために適した手法である。しかしながら、阿下喜温泉のレストランは従前から地域の特色ある食材活用や洗練された調理などの特色がなく、その結果、利用者減少のため令和２年 12 月に閉鎖に至った。このように、顧客が来訪するための強い動機を生み出せない施設となっているため、魅力・集客力に大きな課題を抱えている。

＜にぎわいの森＞

にぎわいの森は、令和元年５月にオープンし、いなべ市庁舎の敷地内の森林の遊歩道沿いに東海・関西の人気店舗が出店したユニークな物販施設であり、令和２年度にはいなべ市外からの来訪者が 76.8%を占めるなど、市外からも強い集客力がある施設となっており、集客数としては大きな成功を修めている。しかしながら、周遊については、令和３年度にいなべ市がにぎわいの森で実施したアンケート調査では「いなべ市の他の施設に立ち寄った」という回答は 27.2%に止まっている。にぎわいの森を訪れる来訪者 35 万人の阿下喜温泉やアウトドア拠点などへの立寄率を 54%に倍増させることができれば、市内の各観光拠点の入込は約 10 万人程度増加することになるため、にぎわいの森からの周遊促進が課題となっている。

＜アウトドア拠点＞

アウトドア拠点については、西日本随一の人気を誇る青川峡キャンピングパークをはじめ、令和３年度にはドッグランとキャンピングカーを併設した宿泊施設をオープンしている。令和４年度以降もデンマークのアウトドアメーカーとコラボレーションした宇賀渓キャンプ場のリニューアルや、市内の遊休地を活用したアウトドア施設の整備など、市内に新たなアウトドア拠点を整備することで、市内の宿泊による滞在時間と消費額の拡大や、交流人口・関係人口の増加を目指した観光・サービス産業の拠点づくりを進めているところである。特に、近年いなべ市が進めているアウトドア拠点は、個々の施設はそれぞれに国内外の有数のアウトドアブランドと提携し、内外に強い訴求力のある拠点としているが、日本のキャンプ人口は 2020 年に 610 万人で、全人口の５％とアウトドアになじみの薄い層は依然として多く、来訪拡大にあたってはこのアウトドアになじみの薄い層に対して、単純接触効果を活用した継続的なアプローチが課題となっている。

これらの課題を解決し、いなべ市の周遊・滞在を促進するためには、阿下喜温泉をにぎわいの森やアウトドア拠点を訪れる都市住民のニーズに合致した強い集客力を持ち、かつ宿泊機能のある施設と生まれ変わらせていく必要がある。

４－２　地方創生として目指す将来像

【概要】

いなべ市を訪れる観光入込客の過半数を占めるにぎわいの森近隣の阿下喜温泉をリニューアルし、宿泊機能を付加してにぎわいの森来訪者の長時間滞留の受け皿とするとともに、アウトドアに親しみが薄い層の宿泊やワーケーション需要を取り込むことで、いなべ市の特性を活かして整備を進めているにぎわいの森やアウトドア拠点への来訪者の市内周遊を実現する。

リニューアルにあたっては、民間の経営ノウハウや活力を導入し時代のニーズに合致した話題性ある設備・運営とし、にぎわいの森やアウトドア拠点と共通するコンセプトデザインやデジタル技術を活用した情報提供や展示機能を充実させ、にぎわいの森やアウトドア拠点の成果と成功を繋げ、いなべ市全域への波及・相乗効果と交流・関係人口の拡大を実現する。

令和６年には東海環状自動車道の北勢インターが阿下喜温泉やにぎわいの森の隣接に完成し、令和８年には東海環状自動車道が全線開通するなど、いなべ市を訪れる来訪者の利便性は飛躍的に向上することが期待される。この機会を逃すことなく、いなべ市だけでなく三重県全域、近隣の滋賀県、岐阜県等への観光交流活性化の核とするとともに、これら広域の産品も活用してレストラン運営や物販を行うなど、阿下喜温泉の機能を整備することで、いなべ市内だけでなく三重県全域や近隣県の行政や事業者等との連携交流を創出し、広域的な活性化と地方創生を実現する。

【数値目標】※　欄は適宜加除してください。

ＫＰＩ	事業開始前 （現時点）	2022 年度増加分 １年目	2023 年度増加分 ２年目
阿下喜温泉利用者数(人)	88,636	-88,636	155,579
阿下喜温泉使用料収入(千円)	51,568	-51,568	256,000
阿下喜温泉の収支（指定管理料等を除く）（千円）	-19,802	0	500

2024年度増加分 ３年目	2025年度増加分 ４年目	2026年度増加分 ５年目	ＫＰＩ増加分 の累計
15,557	8,557	8,985	100,042
25,600	14,080	14,784	258,896
10,020	3,237	3,507	17,264

５　地域再生を図るために行う事業

５－１　全体の概要

５－２の③及び５－３のとおり。

５－２　第５章の特別の措置を適用して行う事業

○　地方創生拠点整備交付金（内閣府）：【Ａ３００７（拠点整備）】

①　事業主体

２に同じ。

②　事業の名称

温泉資源を活用した周遊拠点整備

③　事業の内容

にぎわいの森から阿下喜温泉までは直線距離で1.2kmと近く、雨天でも滞在できる屋内施設であり、2024年度開設の東海環状自動車道北勢ＩＣから約２kmであることから、にぎわいの森の来訪者の受け皿となりうる施設であり、加えて温泉とアウトドア施設は利用者の親和性も高く、いなべ市周遊の核だけでなく、広域的な観光交流の核となり得る施設である。

いなべ市の観光拠点として圧倒的なシェアを誇るにぎわいの森やアウトドア拠点への来訪者を主なターゲットに、施設改修により都市住民が求める洗練された空間を創出し、にぎわいの森やアウトドア拠点を訪れる人を周遊させることで、にぎわいの森やアウトドア拠点の観光入込客増加を市内周遊につなげる。設備・運営にはデジタル技術を活用して既存の青川峡キャンピングパークやいなべ市が整備を進めているアウトドア拠点、近隣の県内外の観光拠点等と連携し「にぎ

わいの森－阿下喜温泉－アウトドア拠点」を有機的に連携させ、観光客の周遊・長時間滞在の流れづくりや相乗効果を図る。

改修にあたっては、畳敷きの休憩室を、本格的に体験できるサウナ棟に改修し、北欧の「Hygge（居心地がいい・楽しい）」や「野遊び」と一体感を醸成する。多目的ホールは地域産品を活用したレストラン及び物販施設に改修する。現在閉鎖しているレストランスペースをワーケーションカフェに改修する。駐車場にコンテナトレーラーを活用した宿泊棟を増設する。都会的なセンスで「アウトドア」や「自然」をイメージできる施設とするなどにぎわいの森と市内アウトドア施設と親和性の高いコンセプトの施設とする。

施設は、地域の資源を活用したレストランや地元産品の物販施設など、にぎわいの森にない補完的な機能を持たせ、アウトドア拠点利用者の滞在期間内及び前後の利用や食材・土産品購入の場とするなどで拠点間や広域の周遊を実現する。加えて、デジタル技術を活用して、観光地デジタルシアターと観光周遊アプリでの三重県初のツアー提供を行うとともに、都市圏からの長期滞在ワーケーション誘客のため、温泉×ワーク環境の整備や施設内無線ＬＡＮなどを整備する。宿泊客へは完全非接触でのチェックイン・チェックアウトを実現するトレーラーハウス型次世代スマートホテルや温泉×サウナ×スマートヘルスケアによる、健康寿命の向上への関心層獲得を目指したウェアラブル端末を整備する。

１　施設名称

（仮称）AJISAI OFURO Cafe & Hotel Resort

２　整備予定場所

旧阿下喜温泉あじさいの里（三重県いなべ市北勢町阿下喜 788）

３　構造等

鉄筋コンクリート造 2544.30 ㎡、鉄骨造 74.92 ㎡の改修（模様替）

４　施設の機能

（１）サウナエリア

・アウトドア拠点のコンセプト「Hygge」「野遊び」と繋がるサウナエリアを整備する。

・観光周遊アプリと連動したデジタルサイネージを整備する。（既存露天風呂にも設置）

・ウェアラブル端末を活用したスマートヘルスケア機能を整備する。

（２）ワーケーションカフェ

・温泉×ワーク環境の設備や最新無線ＬＡＮを整備する。

（３）レストラン＋マルシェ

・地域産品を活用し洗練された調理のレストランを整備する。

・料理に使われた素材その他地域産品の物販機能を整備する。

（４）コンテナトレーラー×スマートホテル

・コンテナトレーラーハウスを活用したホテル機能を整備する。

・非接触・キャッシュレス決裁の最新スマートホテル機能を整備する。

④　事業が先導的であると認められる理由

【自立性】

施設運営は長期貸借による民間活力を活用したスピード感ある経営とし、市との合弁会社も検討しながら、にぎわいの森や市内アウトドア拠点棟と一体感を持ち、魅力ある施設コンセプトとすることで利用者増と相乗効果を実現するとともに、相互送客を行うなどにより経営持続可能な施設とする。

【官民協働】

計画にあたっては、全国でいくつもの温泉再生の成功実績を持ち、隣接の四日市市でも再生した温泉を運営している企業や、東京日本橋で三重県のアンテナショップを運営し、首都圏、中京圏、関西圏で数十件のレストランを運営している企業などと検討を進めている。これらの民間企業のセンスとノウハウを発揮し、時代を先取りした最先端の施設・運営とするため、いなべ市とこれらの企業が合弁会社を設立する。

いなべ市は、民間の経営センスやスピード感は尊重しながら、いなべ市も合弁会社の役員や株主として意見を出して経営に積極的に関与することで利益追求だけではない本来の地方創生の目的を実現していく。こ

れらの連携により、にぎわいの森やアウトドア拠点との連携を精力的に進め、レストランや物販施設と市内生産者との連携を進めるなどにより、市内外の関係者と新たな官民連携を創出する。

【地域間連携】

＜菰野町及び滋賀県東近江市、三重県内及び愛知・岐阜・滋賀の各県の自治体＞

デジタル技術の活用などによる観光情報提供の連携、観光アプリ活用による周遊観光商品化と旅行商品販売促進、その他情報提供・広報連携を実施する。加えて、これらの自治体や生産者と、レストランの食材活用、物販施設での販売による生産者や産地情報の提供を実現する。

＜北海道芽室町、秋田県大館市＞

野遊び SDGs 推進事業で広域連携しており、野遊び拠点を中心とした観光情報提供、旅行商品の相互販売などで具体的に連携している。今後は阿下喜温泉で特産品の販売や食材活用等を行う。

【政策間連携】

今回整備する施設を拠点に、観光・農林業・商業の連携を拡充する。

周辺に増えつつある空き家などを活用した移住者の店舗との相互情報提供や官民協働の周遊イベント開催による店舗来店者増で移住者を支援するとともに、移住の成功事例の蓄積による移住促進を実現する。

同時に、阿下喜温泉が立地する既存店舗への来訪者増が増加することが見込まれ、商店街全体の売上増が既存店舗を維持・存続することなり、これによる空き店舗減少によるまちづくり強化や商店街の事業継承による若手人材の育成など、新たな政策分野横断的な活動を展開する。

⑤　事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（ＫＰＩ））

４－２の【数値目標】に同じ。

⑥　評価の方法、時期及び体制

【検証時期】

毎年度　６月

【検証方法】

外部委員会等第三者機関において毎年効果検証する。今回の事業の検証

は、2023 年６月に実施する。

【外部組織の参画者】

外部有識者会議（総合計画審議会：消防団長、教育委員長、四日市看護医療大学学長、百五銀行いなべ支店長、会計事務所長、民生委員、更生保護女性会会長、連合三重桑員地域協議会事務局長）において、ＫＰＩや事業内容の検証を行い、改善点を洗いだす。

【検証結果の公表の方法】

外部委員会で事業結果に対する意見聴取及びホームページで結果を公表。

⑦　交付対象事業に要する経費

・　法第５条第４項第１号イに関する事業【A3007】

総事業費　398,461 千円

⑧　事業実施期間

地域再生計画の認定の日から 2027 年３月 31 日まで

⑨　その他必要な事項

特になし。

５－３　その他の事業

５－３－１　地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし。

５－３－２　支援措置によらない独自の取組

(1) 阿下喜温泉支援事業

ア　事業概要

阿下喜温泉運営を持続可能な組織とするため、運営の事業主体となる合弁会社を市と民間の出資のもと設立する。

また、にぎわいの森やアウトドア拠点などと連携した情報発信や周遊促進を実施する。

イ　事業実施主体

三重県いなべ市

ウ　事業実施期間

地域再生計画の認定の日から2027年３月31日まで

６　計画期間

地域再生計画の認定の日から 2027 年３月 31 日まで

７　目標の達成状況に係る評価に関する事項

７－１　目標の達成状況に係る評価の手法

５－２の⑥の【検証方法】及び【外部組織の参画者】に同じ。

７－２　目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

４－２に掲げる目標について、５－２の⑥の【検証時期】に７－１に掲げる評価の手法により行う。

７－３　目標の達成状況に係る評価の公表の手法

５－２の⑥の【検証結果の公表の方法】に同じ。